

もうひとりの私

Another Face

いきいきと仕事をしている人は、人生の楽しみを持っている



医療法人医誠会 医誠会病院
臨床検査部 臨床検査技師



葛岡 慶さん
くずおか けい

ホロニクスグループには約5,400人の職員がいます。仕事に加えて様々な特技、趣味、ボランティアで活躍している方も数多くいます。医療法人医誠会 医誠会病院 臨床検査部 臨床検査技師 葛岡 慶さんに仕事以外のもう一つの姿について語っていただきました。

父の背中を見て進む道を決めました

臨床検査技師として働く父の姿を見て、私も技師の道に進みました。医誠会病院に入職し2年になります。消化器内視鏡技師の資格を活かして、内視鏡センターでの仕事も多く、午前中は胃カメラ検査、午後は大腸カメラ検査の補助、特殊検査などを行っています。患者さんの介助であったり医師の指導の下、処置の手伝い、器具出し、操作、内視鏡の保守管理、内視鏡の洗浄を行います。検査をす

を持つ仕事でもあり、やりがいを感じます。

JICA海外協力隊としてバングラデシュに派遣!



大学卒業直後、臨床検査技師の資格は取っていたものの、就職前自分自身を成長させる経験を積みたいと感じ、父がJICA海外協力隊だったこともあり、JICAに応募し、バングラデシュに感染症対策のボランティアとして2年間派遣されました。主な活動としては村々を回り、人のフィラリア症を予防すること。かからないためには蚊に注意するこ



▲葛岡さん自らが感染予防を啓発するベンガル語のポスター

などを住民に伝えます。印象深く残っているのが、教科書で見ると異なるような典型的な重度のフィラリア患者を目の当たりにしたことです。現地の人は自分がなぜこんな病気にかかってしまったのか分かっていません。年一回、住民に駆虫薬(フィラリアを殺す薬)の一斉投与がありました。現地の保健関係のワーカーがちゃんと配っていません。配られても知識が浸透していないので不審な薬だと思いき飲んでおらず、そういったことをなくし、確実にみんなが薬を飲むように日々尽力していました。現地の人からすれば私が外国人というだけで珍しがられ、人が集まってきたので話を聞いてもらえたり、協力してくれる住民もいて、そういう面では活動がしやすかったです。協力隊は目的を成し遂げるために自ら考え、アイデアを出し活動します。その反面何もやらないと2



年間は無駄になるので「何か残す」という意気込みでやりきりました。現地での感染対策活動が10年以上継続された結果、私が派遣された2年間に、担当していた北部ポンチョゴル県で、フィラリア撲滅の基準に達することができました。

厳しい環境から生まれた自信

当時は未経験だったので臨床検査技師として現地向かったわけではないですが、何もない場所を自分の足で村を歩き回り尽力してきたので、気力や体力は誰にも負けない自信ができました。過去の自分に負けないようにチャレンジ精神で日々仕事に励んでいます。臨床検査技師は常に勉強し続けなければいけない仕事なので、今後は更に資格を取って知識を深めつつ、医師にもアドバイスできるくらいの技師になりたいと目標を定めています。

臨床検査技師

患者さんの血液、尿、脳波、心電図、超音波などを検査する技術者で、信頼性の高い検査データを迅速に提供することで医師が診察・治療方針を決定する上で重要な役割を担う。検査のため採血も行い、内視鏡センター、病理センター、透析クリニック等さまざまな分野で活躍している。

もうひとりの私

Another Face

いきいきと仕事をしている人は、人生の楽しみを持っている



医療法人医誠会 常務理事
医療法人医誠会 医誠会病院

病院長 **松本 勝美** 医師



ホロニクスグループには約5,400人の職員がいます。仕事に加えて様々な特技、趣味、ボランティアで活躍している方も数多くいます。医療法人医誠会 医誠会病院 松本勝美 病院長に仕事以外のもう一つの姿について語っていただきました。

1冊の本に感銘を受け医師に

高校生の時、東京大学の微生物学教授であった佐々學先生の著書『風土病との戦い』を読み、著者が次々と難病を解明し、日本国内の寄生虫で生じる風土病や感染症をなくしていった話がおもしろく医師を志しました。脳神経外科の道を選んだのは、神経というものが神秘的に思え、その当時はまだ解明されていないことがたくさんあると思いを進めました。院長業務以外では外来診察、研修医指導、カンファレンス、救急受け入れの解決等、多岐に渡ります。手

術指導においては、大胆に行うところ、繊細に進めるところなど、患者さんへの負担を減らすため決められた時間内で、スムーズに進行できるように、手術のポイントをまだ手術経験が少ない若手のスタッフに助言しています。

山登り歴48年！

山登りは、高校の山岳部に入学してから続け48年になります。部活で初めて登った山は大峰山で、それまで運動はほぼしていなく想像以上にきつかった思い出があります。



富士山 頂上

現在は2ヶ月に一度、主に近畿周辺の山に行きます。昨年7月には二泊二日で富士山を登りました。山小屋は狭く眠れず、夜中の1時ごろ出発したおかげできれいなcome光を見ることができました。山登りの魅力は、自身の体力作りをしつつ、季節により様々な美しい景色を楽しめる事です。また頂上からの眺めもすばらしく爽快感・達成感があります。これまで一番印象に残っている山は高校1年で登った穂高岳です。鎖を使いつつ、滑落すればとても危険なルートを下を見ずに登りました。その日の夕方暗く、少し遅れて下山した他のグループで滑落があり、皆で助けに行ったことがあり特別な記憶として残っています。

大阪周辺のおすすめは六甲山や真冬の金剛山で、遭難の心配も少ないです。デナリ、ブルーマウンテンなど海外の山にも挑戦したいと思っています。ただし、時間がとれればの話ですが。



富士山 夕来光

全ての方が満足いく病院を目指して

病院長という慌ただしく責任感がある職務ですが、山は静かでゆったり時間が流れ、良い気分転換になります。実は私は高いところが苦手です。橋や鎖を使う場所などでは怖さを感じます。恐怖心に打ち勝つには、起りうる全てのリスクを想定し、万全の準備を整えることでのみ克服できます。医療においても同様で、例えば動脈瘤の手術では、今トラブルが起こったら次はこうする、と常に先の事を予見します。手術をコントロールするため最大の準備をし臨んでいます。

当院は救急に力を入れており、急性期脳梗塞で搬送される患者さんに対してはMRI等の検査から脳血管のカテーテル手術やtPA治療を24時間体制で迅速に行えます。新病院開設に向け、患者さん、医師、職員、すべて満足のいくようなシステムにしていくことが今の目標です。

※1 デナリ (マッキンリー) …北アメリカ、ブルーマウンテン…オーストラリア南東部

※2 tPA治療…血栓溶解療法

医師

医師免許を保持し、医師法に基づき、患者さんの傷病・機能障害の診断・治療・手術・研究、保健指導、外来・病棟での診察、後進への指導、カンファレンス、診断書、紹介状などの書類作成、その他、専門的・技術的な仕事に従事する者。